

令和4年度入学試験問題

国語 (3科目入試)

注 意

1. 合図があるまで表紙をあけないこと。
2. 解答はHBの黒鉛筆もしくはシャープペンシルで解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークすること。
3. 解答用紙に受験番号を正しくマークし、氏名を記入すること。
4. 解答用紙に解答以外のことを書いた場合、その答案は無効とする。
5. 受験票は机に出しておくこと。
6. 【国語】の問題は1番から40番までとなっており、別に記述問題が1問あります。記述問題の解答は、マークシートではなく記述問題用の解答用紙に解答すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上、公開しておりません。

著作権の関係上、公開しておりません。

著作権の関係上、公開しておりません。

* 問題の作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 傍線部1「文学で問題となるイメージ」とあるが、これはどのような感触なのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **1**。

- a 小説の世界にどっぷりとはまり込むことによって、日常世界から完全に逸脱し、見知らぬ状況の中で振る舞っているような感触。
- b 活字の世界に心身ともに移行することで、さも現実の世界にいたかのように、物事が具体的にありありと見えているような感触。
- c 文字の連なりを見てはいるのだが、そのうちに文字の向こう側に現実とは異なる世界が広がり、自分がその中にいるような感触。
- d ページをめくるうちに、語り手の言葉に触発され、語り手に同化することで、語り手とともに物語を楽しんでいるような感触。
- e 読書とは異界に入り込むためのスイッチであり、そこでは現実か夢かの区別がつかず、不思議な気配に包まれているような感触。

問2 空欄①～⑤を補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。ただし、同じものを二度以上選んではならない。解答番号は

- ① **2** ② **3** ③ **4** ④ **5** ⑤ **6**。
- a 少しかたい言葉を使えば b といっても c 実際 d もちろん e では

問3 傍線部2「身を置く」こととあるが、文学にとって、これはどのようなことを意味するのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は7。

a 「身を置く」こととは、異界に入るために必要なスイッチであり、そのスイッチを入れることで、さまざまな人物になり切り、夢を実現することを意味する。

b 「身を置く」こととは、言葉を媒体にして何かを見せるフレームを形成し、そのフレームを通して他人の見た世界を再構築しようとすることを意味する。

c 「身を置く」こととは、小説の中の登場人物に同化することで、フランス革命以降の歴史をあたかも現実に生きているかのように体験することを意味する。

d 「身を置く」こととは、世界を理性的ではなく感情的に捉えるためのフレームであり、そのフレームを通して現実とは異なるもう一つの世界に入り込むことを意味する。

e 「身を置く」こととは、現実と異界との境界を超えるためのスイッチであり、そのスイッチを入れることで、イメージ性を持ち、記号化された世界を自分で作ることを意味する。

問4 空欄Iを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は8。

a 主体的な作業 b 生得的な営み c 理性的な振る舞い d 文化的な身ぶり e 現実的な所作

問5 空欄IIを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は9。

a 現実が現実であることを拒み b 虚構が虚構であることを忘却し c 記号が記号であることを止め
d 世界が世界であることを自覚し e イメージがイメージであることを確認し

問6 傍線部3「叙事詩や悲劇に比肩するジャンルにのし上がった」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は10。

- a 叙事詩や悲劇に匹敵するジャンルに信奉されたということ。
- b 叙事詩や悲劇に伍するジャンルに昇格したということ。
- c 叙事詩や悲劇に酷似するジャンルに遇されたということ。
- d 叙事詩や悲劇に長ずるジャンルに叙されたということ。
- e 叙事詩や悲劇に相応するジャンルに擬せられたということ。

問7 傍線部4「近代文学において主流になってゆく小説というジャンル」とあるが、小説とはどのようなものなのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は11。

- a 小説とは、物語自体の正当性や人物の正当性などは求められず、社会的に何でもない個人がいかに懸命に生きているかという姿を描き、いかに多数の読者の共感を得るかが問題とされるものである。
- b 小説とは、王や王妃や貴族といった人たちの模範的な人生ではなく、ごく普通の人々がごく普通の日常を送っている姿を描くもので、その物語の面白さに疑問が付されているものである。
- c 小説とは、ある人物の〈主観〉あるいは〈内面〉と呼ばれているものが重要とされ、それを通して見えてくるものを描き、書き手の思いを受け取ることでできた読み手のみが楽しむことのできるものである。
- d 小説とは、家族との関係、職業のあり方、街路をみたす群衆、都会とは異なる地方の風習など人間の外にある環境、社会、時代を中心に描き、近代という新しい時代の輪郭を形成するものである。
- e 小説とは、普通の個人が自分に与えられた状況の中でもがいたり、欲望を実現したりする姿勢が描かれ、それが多数の読者にも想像可能なものとして受け入れられていくというものである。

問8 次の文は、本文中の【1】～【5】のどこに入るか。後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は【12】。

想像界における価値をすでに認められた存在として、人物たちは新たな冒険に乗りだすことができるからだ。

- a 【1】 b 【2】 c 【3】 d 【4】 e 【5】

問9 傍線部5「古色蒼然とした世界の探索」とあるが、これはどういうことか。その説明として、最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は【13】。

a 人間を規定するものは、人間の外にある環境、社会、時代であるのに、それらを度外視して頑^{かたく}なに人間の主観にこだわり、人間の内面のみを描いていこうとする近代文学の方法のこと。

b 社会の中で居場所を創り出した個人が世界をさまざまなイメージとして体験していく姿を描くという、時代状況の厳しい現代から考えると牧歌的であると思われる近代文学の方法のこと。

c DNA、神経組織、脳の構造によって、人間は規定されていることが解明されていなかったため、かえって自由に想像力を働かせ、物語を創り出すことができたという近代文学の方法のこと。

d 小説の中で、人間社会を構成するさまざまな要素を、その中を生きる人間の目を通して描き出すことによって、変化に富んだ世界を構築していくという近代文学の方法のこと。

e 人間や社会や環境や時代を科学的、合理的に認識し、描き出すという方法ではなく、人間の感情を通して、多様に描き出すという非科学的な近代文学の方法のこと。

問10 空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は【14】。

- a 相対化 b 観念化 c 理論化 d 特殊化 e 実質化

問11 本文の内容と一致するものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **15**。

a フランス第三共和制下の作家であるポール・ヴァレリーは、「身を置く」という言葉で認識の方法としての文学をまとめたのだが、この方法を過去の遺物であると簡単に捨て去ってしまうことは賢明なこととは思えない。

b 小説にとって重要なことは、現実をありのままに模倣することではなく、いかに言葉によってひとつの世界をつくりだすかにあるので、フランス革命以前の文学のように叙事詩や悲劇という形式をとることはなかった。

c 文学においては、ある人物の主観を通して外部を見つめるという姿勢が重要視されたのだが、現代では、人間を規定するのは外部であると考えられているため、もはや文学は過去のものであり顧みられることがなくなった。

d 小説を読んでいるあいだは、人が変わってしまうため、小説を読むことは狂気の下にあると恐れられていたときもあったが、近代に入り、小説を読む方法が確立し、その考えは改められることになった。

e 産業革命がおこり印刷術が発明され、メディアが盛んになったことで、職業作家が登場し、小説が社会に受け入れられるようになり、現代においても、小説というジャンルは多彩な魅力を發揮している。

著作権の関係上、公開しておりません。

著作権の関係上、公開しておりません。

著作権の関係上、公開しておりません。

著作権の関係上、
公開しておりません。

(森村修『ケアの形而上学』による)

(注1) フロイト——オーストリアの精神科医で、精神分析の創始者。

(注2) リビドー——精神分析学の基礎概念で、性的本能に基づく衝動のこと。

(注3) デリダー——フランスの哲学者。

(注4) フッサール——ドイツの哲学者。

* 問題の作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 二重傍線部 i、ii のここでの意味として最も適当なものを、次の a～e のうちから一つずつ選びなさい。解答番号は

i 余儀なくされる

a 考えるだけのゆとりが出てくる

b やむを得ず受け入れることになる

c 努力しながら行おうとする

d わずかな時間で実行しなければならぬ

e 躊躇なく決定すべき状況である

ii 執拗に

a 粘り強くしつこいまでに

b 根気強く恣意的に

c あくまでも語句に忠実に

d 人の話も聞かず頑なに

e あされるほど丁寧に

i 16、ii 17。

問2 傍線部1「〈生者〉による内面化の失敗は、実は〈死者〉にとっては成功なのだ」とあるが、このように言うのはなぜか。その説明として最も適切なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は18。

- a 〈生者〉による内面化が失敗すると、〈死者〉として葬られてしまうのだが、〈異質な他者〉として〈生き延びる〉ことができるから。
- b 〈生者〉による内面化が失敗すると、忘却されることなく、〈死せる死者〉として〈生者〉の心の中に生き続けることができるから。
- c 〈生者〉による内面化が失敗すると、〈スピリチュアル・ペイン〉をもたらず〈死者〉として敬意は払われないが、存在はできるから。
- d 〈生者〉による内面化が失敗すると、〈生者〉としての〈死者〉ではなく、〈他者の他性〉を保持したまま〈生きる〉ことになるから。
- e 〈生者〉による内面化が失敗すると、〈死者〉として生きるわけではないが、〈死者〉として〈生者〉に取り込まれることになるから。

問3 傍線部2「『メランコリー（鬱病）』の可能性を引き受けることを選択する」とあるが、デリダはなぜこのようなことを選択するのか。その説明として最も適切なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は19。

- a 他者を自己の内部に自己として保存すること、〈スピリチュアル・ペイン〉を回避することができなくなるが、それでも〈生者〉は〈死者〉とともに生き続けなければならないと考えるから。
- b 愛する者を失って一人になってしまった〈生者〉は、自分は〈孤独〉でも〈孤立〉しているわけではないと思うためには、大変であっても〈死者〉を自らの内に抱えておかなければならないと考えるから。
- c 〈死者〉を抱えて〈生きる〉ことで〈魂のいたみ〉を持つて〈生者〉は生きることになるが、そのような〈いたみ〉に耐えてでも〈生者〉はつねに〈死者の声〉に答えていかなければならないと考えるから。
- d 「喪の作業」は出口なしの「アポリア」としてしかありえず苦しいものであるが、そのような「人生の危機」を乗り越えて〈死者〉を内面化しなければならぬと考えるから。
- e 〈生者〉は〈死せる他者〉である〈死者〉との過去を振り返ることで悲しみを覚えてしまうが、たとえそのような悲しみがあっても、〈死者〉を忘却してはならないと考えるから。

問4 空欄Ⅰを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 20。

- a 〈死者を冒瀆^{ぼうとく}する〉 b 〈死者を他者化する〉 c 〈死者を二度殺す〉
d 〈死者のいたみを感じる〉 e 〈死者とともに生きる〉

問5 空欄Ⅱを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 21。

- a それがケアというものだ
b それは倫理そのものだ
c それが哲学というものだ
d それは人生そのものだ
e それが内面化というものだ

問6 空欄Ⅲに入る〔1〕～〔4〕の文を正しく並べたものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 22。

- 〔1〕 〈生者〉が〈死者〉を抱えて生きる〈魂のいたみ〉が「実存協同」に不可避の〈いたみ〉であるならば、〈ケア〉されるべきだとは思えない。
〔2〕 私は〈ケアの倫理〉の立場から、「スピリチュアル・ペイン」が全て〈スピリチュアルケア〉によって〈ケア〉されるべきであるとは考えていない。
〔3〕 残された〈生者〉が自らのうちに〈愛する死者〉を抱えてともに〈生きる〉ことを選ぶとき、〈生者〉もまた必ずしも〈孤独〉なわけでも、〈孤立〉しているわけでもない。

〔4〕 〈死者〉とともに「実存協同」しながら〈生き延びる〉ことが、〈生き残った生者〉の「責任＝応答可能性」を果たすことになるからだ。

- | | | | |
|---|-----------------|---|-----------------|
| a | 〔2〕↓〔1〕↓〔3〕↓〔4〕 | b | 〔2〕↓〔4〕↓〔1〕↓〔3〕 |
| c | 〔3〕↓〔1〕↓〔2〕↓〔4〕 | d | 〔3〕↓〔4〕↓〔1〕↓〔2〕 |
| e | 〔4〕↓〔2〕↓〔3〕↓〔1〕 | | |

問7 空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 23。

- a 絶対的 b 暫定的 c 一般的 d 無機的 e 概念的

問8 傍線部3「フッサール現象学」へと矛先を向けていく」とあるが、デリダはフッサールのどのようなことを非難しているのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。解答番号は 24。

- a 「自我≡私」以外の世界を無化した後も生き残る「純粹自我」は、世界を無化したことにより究極的な根拠にならなくてはいけないのに、フッサールがそのことに気づいていないこと。
- b 超越的な世界が存在していないところで「純粹自我」は、〈死せる他者〉である「他我」を自己同化しなければならないのに、フッサールがそのことに意味を見出していないこと。
- c 「純粹自我」は〈死せる他者≡死者〉としての〈まったき他者〉を担うために〈あらゆる他者〉と対話しなければならないのに、フッサールがそのことを拒み続けていること。
- d 現象学的還元によって見出されるはずの「純粹自我」は、「他我」に対する責任を負わなければならないのに、フッサールがそのことに意識を向けていないこと。
- e 〈死〉を避けることは誰もできず、亡くなった〈他者〉、つまり〈死せる他者〉のために〈生者〉は喪に服さなければならないのに、フッサールがそのことを成そうとしないこと。

問9 空欄Ⅳを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 25。

- a 現象学的な直観の中で担う必要があるのだ
- b 「純粹自我」ではない「私」が担う必要があるのだ
- c 「世界」を無化することによって担う必要があるのだ
- d 「喪の作業」としての倫理に抗い担う必要があるのだ
- e 自己固有化することなしに担う必要があるのだ

問10

次の①～⑤のうち、筆者の考え方にあてはまるものにはa、あてはまらないものにはbをマークしなさい。解答番号は

① | 26

② | 27

③ | 28

④ | 29

⑤ | 30

① フロイトは「正常＝規範的な喪の作業」を提唱し、その作業を上手く行うことで、「メランコリー（鬱病）」に陥らないようにすべきだと考えているが、デリダは、〈スピリチュアル・ペイン〉を伴っても、それを引き受けるべきだと考えている。

② 愛する者を失うということは、誰もが遭遇することであるので、「喪の作業」も日常生活において普通に起こる現象の一つであるが、デリダはそれを〈人生の危機〉にとらえ、人生のアポリアであると認識している。

③ デリダは、死を迎える直前まで、哲学者であるガダマーと直接会って対話しながら、パウル・ツェランの詩を解釈していたことから分かるように、「責任＝応答可能性」という問題について関心を持ち続けていた。

④ 〈死者〉に対する「責任＝応答可能性」を果たすことにより、〈生者〉は〈魂のいたみ〉を覚えることになり、〈生者〉は〈スピリチュアルケア〉を行うことによって、〈魂のいたみ〉を和らげるようにしなければならない。

⑤ 「純粹自我」の内で〈死せる他者〉が〈生き続けて〉、〈生き延びて〉存在しているとき、残された〈生者〉が〈孤独〉を味わうことから免れることができるのは、〈生者〉と〈死者〉とが「実存協同」しながら生きているからである。

問11

フロイトにとって、「喪の作業」とはどのような作業であるのか。本文中の語句を用いて、一〇〇字（句読点などは字数に含む）以内で説明せよ。

※解答は記述問題用の解答用紙に記入しなさい（マークシートには記入しないこと）。

問1 次の漢字の画数として正しいものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **31**。

- 随
- a 十画 b 十一画 c 十二画 d 十三画 e 十四画

問2 熟語の表記が三つとも正しいものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **32**。

- a 認化―不測―呪符
b 点描―奇興―起債
c 不惑―能利―起工
d 故実―遂考―首尾
e 浅才―貼付―総花

問3 次の文の、カタカナ部分の傍線部と同じ漢字を書くものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **33**。

秋の味覚をマンキツする。

- a キツキンの課題を解決する。
b キツボウが届いた。
c キツスイの江戸っ子である。
d 責任者をナンキツする。
e キツコウ模様で覆われていた。

問4 次の四字熟語の空欄に使われている漢字の組み合わせとして正しいものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **34**。

和魂□才 — □操堅固 — 如是我□ — 天下無□ — 常住□断

a 漠 — 志 — 聞 — 双 — 不

b 米 — 志 — 聞 — 双 — 普

c 米 — 支 — 問 — 相 — 不

d 漠 — 支 — 問 — 相 — 普

e 漠 — 志 — 問 — 双 — 不

問5 傍線部の慣用句の使い方が正しいものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **35**。

a 捕虜になった兵士は膝を乗り出して命乞いした。

b 期待と不安が膝を交えて、いきなり襲ってきた。

c 単調になっているので、膝を崩すように忠告した。

d あまりにも剽軽な振る舞いに、膝が笑ってしまった。

e 解決策を見つけ、二人で膝を打って喜んだ。

問6 ことわざ・慣用句・四字熟語とその意味の組み合わせとして正しくないものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **36**。

a 乾坤一擲 — 一度敗れたものが、再び勢いを盛り返すこと。

b 事大主義 — 強い者に従い自己の安全を図ろうとする。

c 泣いて馬謖を斬る — 規律の厳正のために、私情にとらわれないで処分する。

d 獅子身中の虫 — 恩を受けた者に仇で返すことのとえ。

e 草の根を分けて探す — 可能な限りの方法を用いて、くまなく探す。

問7 次の五つの熟語の反対語を1～10のうちから選ぶとき、正しいものがすべて含まれている組み合わせを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **37**。

「配下」「国産」「召還」「反逆」「被覆」

1 派遣 2 首領 3 上申 4 出頭 5 背水 6 舶来 7 顕彰 8 露出 9 恭順 10 外交

a 1、2、5、7、9

b 2、3、6、7、10

c 1、2、6、8、9

d 2、4、5、9、10

e 1、3、6、7、8

問8 次のカタカナ語の意味を、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **38**。

「コンプライアンス」

a 複数の人による意見の一致のこと。

b 持続可能な発展を続けること。

c 法や社会的ルールを守ること。

d 企業内部を上手く治めること。

e 人にやる気を起こさせる刺激のこと。

問9 北原白秋の作品を、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **39**。

a 邪宗門

b 抒情小曲集

c 山羊の歌

d 測量船

e 道程

問10

1931年に東京都で生まれ、詩集『二十億光年の孤独』や訳詩集『マザーグースのうた』などを発表し、日本語の詩の世界の豊かさを広げ続ける、現代を代表する詩人の一人とは誰か。次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は40。

- a 大岡信 b 長田弘 c 吉本隆明 d 谷川俊太郎 e 田村隆一